

統計調査の広報に関する研究会（第2回）議事要旨

- 1 日時 平成23年10月5日（水）13：30～15：30
- 2 場所 総務省第二庁舎6階特別会議室
- 3 出席者
委員：川上和久座長、池田純子委員、三浦展委員、森まり子委員、林奈津子委員
総務省：福井統計局長、須江統計調査部長、水上調査企画課長、奥積調査企画課調査官
- 4 議事
 - (1) 統計調査の広報について
 - (2) 報道等への情報提供について
 - (3) その他
- 5 配布資料
 - 資料1 平成22年国勢調査の広報の実施状況について
 - 資料2-1 統計局における教育の場を利用した広報の取組について
 - 資料2-2 統計学習サイトについて
 - 資料2-3 霞が関子供見学デーについて
 - 資料3-1 統計局における報道等への情報提供・有識者等との連携の取組について
 - 資料3-2 統計調査等の結果の全国紙への掲載状況について（平成22年度）
 - 資料3-3 経常調査におけるパブリシティの活用、有識者との連携の事例
- 6 議事要旨
 - 開会にあたり、福井統計局長より挨拶。
 - 事務局より資料に基づいて説明を行い、その後、意見交換が行われた。
 - 次回は、ホームページのアクセス件数等について資料を提出する予定。
 - 次回開催は、年明け予定。

【主な意見】

(1) 周期調査の広報、統計教育等

- 平成 22 年国勢調査のサイトを見たが、キャッチーではないと感じた。統計局のホームページならではの工夫がほしい。「なるほど統計学園」は、少子化など、テーマが設定されている点は評価に値する。ただ、テーマの中にある小見出しが面白くない。問題意識をかき立てるような小見出しにすべき。例えば、国勢調査の統計を商品として販売したとして、どういう見出しなら買ってもらえるか、といった視点も必要である。
- 子どもの日にちなんだデータを提供する場合は、子どもの数だけではなく、子どもに関連する他のデータも編集して出せば興味を引く。統計局内のデータだけでも、組み合わせれば面白いと思う。
- 経常調査広報の平成 21～23 年のポスターに関しては、平成 21 年の 4 コママンガのポスターで、調査員が対象世帯を訪問する様子が描かれているものの方が、調査員が自宅を訪問するという点では良く伝わる。

(2) 報道への情報提供

- 広報実施計画にメディア対応の充実を図る必要がある。記者クラブだけではなく、家庭面の担当に少子化の情報を提供したり、紙面で取り上げやすい形で情報を提供した方が良い。他にも例えばテレビの効果的に統計を伝えられる番組や web メディアの活用など、方法は多々あるので、狙いを定めるなどして取材を待たないで、こちらから仕掛けていくことが必要。
- 新聞を取っている若い人が少なくなっている。その中でメディア戦略の見直しが必要。
- 総務省の統計調査のデータで何が分かるのか、他の府省の統計と比較したりして、明確にすると、相乗効果で効果が上がる。
- 経常 4 調査はそれぞれ性格が異なるため、情報提供の対象とするメディアの担当者も調査によって変えた方が効果的。
- 報道には絵になるものが喜ばれる。知事が 100 歳の人を訪問するのと合わせて、100 歳以上の人口を発表すれば、取り上げられる。東京都では、高齢者人口の推計を公表しており、メディアに取り上げられている。

以上

<文責：事務局（今後、修正することがあり得ます。）>